

第26回アジア・太平洋特別支援教育国際セミナー報告

笹本 健

(企画部 上席総括研究員)

I. はじめに

当研究所では、12月4日から4日間にわたりアジア・太平洋特別支援教育国際セミナーを横浜シンポジアにおいて開催した。参加国は日本を含め、オーストラリア、バングラディッシュ、中国、インド、インドネシア、マレーシア、ネパール、ニュージーランド、パキスタン、フィリピン、韓国、スリランカ、タイの14カ国で、セミナー開催期間中、参加国の代表をはじめ日本側からは障害児教育関係、一般参加も含め、延べ約250名前後の参加者があった。

本年は特に、当研究所における今後5年間にわたる第Ⅱ期中期計画の開始年ということもあり、昨今の我が国の教育動向を踏まえながら、積極的な国際交流ならびに貢献活動をより一層促進するために新たな基本方針を設定し、セミナーの運営面、内容面での刷新を図っていくことにした。

II. 刷新の内容

1. セミナー名称の変更

従前のセミナーの名称は「アジア・太平洋特殊教育国際セミナー」であったが、本年からは「アジア・太平洋特別支援教育国際セミナー」に改め、障害のある子どもの教育に関する我が国の新たな動向についてアジア・太平洋諸国に対して積極的に情報提供を行うこととした。

2. 実施時期変更と他機関の利用

本セミナーを我が国の「障害者週間（12月3日～9日）」にかかる事業として位置づけ、「特別支援教育」の一般社会への周知を図るとともに、国際交流の観点からJICA横浜（国際協力機構横浜センター）の施設を海外参加者の宿泊に活用することで、国際交流関連他機関との効率的な連携を図ることを試みた。

3. プレカンファランスの試み

従前は、セミナー終了後に海外参加者による障害児教育関連施設の見学が行われていたが、本年はそれを一日目に企画するとともに、セミナーにおける討議内容について相互の理解を深めるための事前の協議を行った。

これまでは、参加国の国情がそれぞれ異なっているた

め、セミナーでの討議内容がともすれば拡散してしまい、内容が十分に深まっていけないというきらいがあった。それ故今回からはあらかじめ日本の国情やセミナーでの討議内容についてセミナー参加当事者に明確な情報提供を行い、相互共通理解を促すための、いわゆるプレカンファランスを行ったのである。

4. セミナーの基本テーマ設定

今後5年間にわたる基本テーマを「共生社会を目指し、子ども一人一人のニーズに応じた教育の発展を考える」とし、各年で設定されるテーマの基軸をいわゆるノーマライゼーションやインクルージョンの理念に基き設定した。その上で、本年度のテーマを「子ども一人一人を巡る教育、保健、医療、福祉等、各分野の連携・協力について」に設定した。

従前は障害種別の切り口によりテーマ設定を行っていたが、今回からは国際的に共通した方向性の下、毎年日本やアジア・太平洋諸国の個性、共通性を考慮したテーマ設定を行い、討議内容の充実を図っていくことにしている。

5. コーディネーターの設定

当事国の施策や文化や習慣と密接に関連している「教育」の場合、他国語に翻訳する際にさまざまな誤解や齟齬をきたすことが多々見受けられる。すなわち「直訳の落とし穴」であるが、従前からもこのような落とし穴を避けるために通訳者との事前打ち合わせを行っていたが、今回はさらにそれを徹底するために通訳とプレゼンターの発言意図を調整したりセミナー全体の流れを調整したりするコーディネーターという役割を設定した。

以上のようなセミナーの刷新に向けての活動を展開した結果、海外からの参加者からは総括討議での内容が深まったこと、さらに日本の特別支援教育の動向がよく理解できたことなど、良好な感触を得ることができた。

III. 本セミナーの実施内容

1. 開催テーマ

前述のように、今後5年間にわたる基本テーマを「共生社会を目指し、子ども一人一人のニーズに応じた教育の発

展を考える」とし、それを基本に今年度の開催テーマを「子ども一人一人を巡る教育、保健、医療、福祉等、各分野の連携・協力について」に設定した。

2. 主催

独立行政法人国立特殊教育総合研究所
日本ユネスコ国内委員会

3. 日程・会場

日程：2006年 12月3日～8日

- 12月3日（月）各国参加者来日
- 12月4日（火）研究所・テーマ関連機関（横浜市地域活動ホーム：どんとこいみなみ）見学、ならびにセミナー打ち合わせ
- 12月5日（水）開会式・基調講演・国際比較報告・各国報告
- 12月6日（木）各国報告
- 12月7日（金）各国報告・総括討議
- 12月8日（土）各国参加者離日

会場：横浜シンポジア

4. テーマ関連施設見学

12月4日は、横浜市にある地域活動ホーム「どんとこいみなみ」の見学を行った。「どんとこいみなみ」は、障害がある人とその家族が地域の中で安心して暮らしていけるように今あるサービスをコーディネートし、素早くそれぞれのニーズに対応していくことをモットーに、生活支援・デイサービス・相談事業を行っている施設である。近隣の医療施設、養護学校とも緊密に連携しており、障害がある人の地域生活支援の新たな中核施設の在り方として、各国の参加者も注目していた。

この後「どんとこいみなみ」において行われた質疑応答の内容も踏まえながら、横浜JICAの研修室において、セミナー全体の流れや内容に関する打ち合わせが行われた。

前述したように、施設見学やそこでの質疑応答、横浜JICAでの打ち合わせ等、一連の活動をプレカンファレンスと位置づけている。

5. 基調講演

12月5日の午後、開会式に引き続き、本研究所の西牧謙吾 主席総括研究員による基調講演が行われた。テーマは、本年度の開催テーマと同様の「子ども一人一人を巡る教育、保健、医療、福祉等、各分野の連携・協力について」であるが、本セミナー開催の基本理念である「共生社会を目指す」という意味、さらには「障害がある人々の教育」

やそれを展開する「医療・福祉・保健と教育の連携」の意義、という国際的に共通した根幹的な事柄、ならびに国際的な政策論の背景について大所高所からの展望を行った。

このように世界各国の障害者教育に共通する背景に焦点を当てた講演は本研究所の国際セミナーでは初めてであり、日本の参加者、海外からの参加者を問わず共通に認識すべき課題として興味深く受け止められた。また、今後の本セミナーの展開に大いに参考となる内容でもあった。

6. 国際比較報告

基調講演に続き、本研究所徳永豊総括研究員から本研究所における国際比較研究活動の報告ならびに参加各国の教育と障害児の教育に関する現状に関する報告が行われた。

7. 各国報告

12月5日の午後から7日の午前にかけて、日本を含む14カ国の参加国代表により、本年度のテーマ「子ども一人一人を巡る教育、保健、医療、福祉等、各分野の連携・協力について」に基づく国別の報告が行われた。

以下に、発表者の氏名・所属を示す。

オーストラリア

Mr. Patrick Cremen（オーストラリア大使館）

バングラデッシュ

Mr. Khandaker Jahurul Alam（障害者と共に働く組織のための国家評議委員会理事長）

中国

Ms. Yunying Chen（国立教育研究所主任研究官・学術委員会会長）

インド

Ms. Anita Julka（国立教育評議会特殊教育部門長）

インドネシア

Ms. Purna Wardhani（教育省特殊教育部門担当官）

日本

藤井 茂樹（国立特殊教育総合研究所教育支援研究部総括研究員）

マレーシア

MR. Mad Kassim Bin ABD. Malek（教育省特殊教育課課長補佐）

ネパール

Mr. Mahashram Sharma（教育部門長）

ニュージーランド

Ms. Adele Peart-Baillie（教育省特殊教育北西オークランド地区担当官）

パキスタン

Mr Mubarik Ahmad（特殊教育総局企画官）

フィリピン

Ms. Theresa J Macapagal (クパティノー特殊教育センター長・ミリアム大学院教授)

韓国

Ms. Kyung-Sook Kang (国立特殊教育院教育研究官)

スリランカ

Mr. J.M Sandya Bandara Kulasekara (クルネガラ地区教育局副部長)

タイ

Ms. Pikul Leosiripong (チェンマイ北盲学校校長)

8. 総括協議

最終日の12月7日に、各国報告を踏まえて総括協議が行われた。総括協議では各国それぞれセミナーにおいて討議された内容について持ち帰り、それぞれの水準で実現化を目指すという考え方にに基づき、以下に示す課題について討議を行った。

- ①各国報告とその後の討議を踏まえて、それぞれの国がもつ共通課題は何か
- ②各国報告を踏まえ、学ぶべきベストプラクティスは何か
- ③子ども一人一人のニーズに応じた教育の発展に向け、カリキュラムや学校経営や教育方法等の評価・指標とは何か

IV. おわりに

以上のように、本年度からセミナーの運営や内容についての刷新を試みていくことにしたが。しかし他方では、セミナーの内容についてさらに討議を深めその充実を図っていくために討議の枠組みの精選化を図ること、今回の成果を今後につなげていくための連続性を維持すること、また運営については「障害者週間」の観点から一般参加者の参加意識を高めるための配慮等、新たな課題も見えてきた。

今後は、これらの反省や示唆を踏まえてより充実した新たなセミナーの在り方を探っていきたいと思っている。

